



Title	都市化とねずみの生態
Author(s)	生沢, 万寿夫
Citation	makoto. 1973, 1, p. 4-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86288
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



都市化とねずみの生態

大阪市立大学医学部教授

生沢 万寿夫

はしがき ねずみの地球上における歴史は古く、二億数千万年以前に、この地球上にあらわれ、進化しながら現在にまで至ったといわれているが、この中でも、人間生活と関係の深いクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミなど、家ねずみと呼ばれる種類の、野その仲間であるハタネズミ、アカネズミなどの個々の種類や集団におけるねずみの生態については、多くの調査や研究によって、かなり解明されてきた。

しかし、最近の都市化の中で、ねずみの生態は、過渡的であり、あまり明確にされていない現状である。

ここ十数年来の都市の環境はいわゆる都市の近代化または都市化という形で、そこにすむ人間の生活様式や、生物相にも大きな影響をもたらし、都市の公害または環境汚染という事態のもとで、人間生活と最も密接な生活関係にある、都市の家ねず

みグループの生態にも、大きな変化を与えているのである。

この地域でのねずみの生態は必ずしも一定のパターンをもち、常に多少とも変化してお

都市におけるねずみの種類と変遷

都市の変化は急激に進んでいるが、その種類としては、

主として家屋内に生活するクマネズミと、一時家屋外で生活し、時季によって、家屋内に移動して生活するドブネズミとハツカネズミである。

従来までのこれらねずみの割合は、住宅地区では、クマネズミが圧倒的に多く九割を占め、ドブネズミは一割であった。また、商店街や港湾地帯でもクマネズミは七割を占め、ドブネズミやハツカネズミは劣勢種であったが、近年に至って、ドブネズミが商店街や地下街、ビルに進出して、大繁殖をつづけてい

るのである。
「表1」は大阪市内の商店街や飲食店街で、昭和二十六年、

昭和四十二年、昭和四十七年に調査した結果であるが、二十数年の間にドブネズミが圧倒的に多くなり、昭和四十七年の成績に見られるように、ドブネズミは九十七・三三%で、また、雌の活動が目立っているのは、今後ますます大増殖をする可能性のあることを示している。

しかし、「表2」に見られるように、都市でも都市化の進んでいない住宅地区では、クマネ

ズミが六十五%、ドブネズミ三十五%と、殆んど従来迄の状態を保っているのである。

また、比較的郊外の鉄筋住宅団地では、環境によって、これらのねずみの生態状況は異なるが、屋外ではドブネズミが多く狭い場所に容易に出入りできる、小型のハツカネズミも繁殖しているのである。

以上のような都市におけるねずみの変遷は、何故起ったかというところについては、都市の再開発や都市化による人工的、人為的な変化による場合と、台風や地震などの、自然的な変化による場合の二つが考えられる。

とくに、前者の場合は、東京や大阪のような大都市に見られる再開発に伴って、河川の埋め立てや、高速道路または高層ビルの建設に際しての堀りおこしで、そこにすんでいたドブネズミの集団は、その場所を追われて移動し、食物豊富な飲食店街やビルまたは地下街のような好適な場所にすみつき、そこで大繁殖して、さらにその行動圏を拡げ、その一部は、次の都市化された好条件の場所へと移行するのである。

		クマネズミ		ドブネズミ	
		個体数	割合	個体数	割合
昭和26年	雌	610	64.3%	292	35.7%
	雄	422		281	
	計	1,032		573	
昭和42年	雌	35	12.7%	240	87.3%
	雄	27		185	
	計	62		425	
昭和47年	雌	1	2.67%	45	97.3%
	雄	1		28	
	計	2		73	

表1 大阪市内商店街におけるねずみの年次別比較

		クマネズミ		ドブネズミ	
		個体数	割合	個体数	割合
雌雄計	雌	76	64.6%	39	35.4%
	雄	46		28	
	計	122		67	

表2 大阪市内住宅地区におけるねずみの生態状況

都市化の中のねずみの生息状況

近年のわが国における高度経済成長は、都市の公害という暗い一面を露呈し始め、大気汚染や騒音と共に、人間の食生活における廃棄物は、相当な量で、都市の大問題となりつつある。このような食料廃棄物は、ね

ずみにとって、異常繁殖の好餌料を与えることになり、とくに活動範囲が広く、どう猛で、他の種類より増殖力の高いドブネズミにとつては、近年の都市の環境は、絶好のすみかでもあり活動の場でもある。

もともとドブネズミは、地下で穴居生活をしていたものであるが、都市では、道路が舗装され、その地下はコンクリート化されたり、パイプ網が走り、ビルは鉄筋コンクリートで固められて、彼らにとつて、土中生活とは縁遠いものとなったが、生活力が強く、その広い食性などから、必ずしも土中で生活する必要がなくなり、より安定した

都市の中で、一定集団の「なわばり」と「行動圏」を保ちながら、豊かな生活をしている。一方、クマネズミは、一般民家においては優勢であるが、ビルの上層階や、地下でも特定の閉鎖環境では、集団をつくって生息し、いったん、ドブネズミとの「なわばり」争いで、この均衡が破られると、優勢なドブネズミの侵すところとなり、こ

の場所はドブネズミの「行動圏」に入ってしまうのである。むすび その昔、ある学者が人類の次に地球を支配するものは、ねずみ類であると語ったが近年における都市の公害や人口問題は、深刻なものがあり、われわれ人間が、この点について真けんに考え、取りくまなければ、本当にねずみ類が地球を占領しかねないのである。

府政だより

◇◇◇

大阪府衛生部では、きたる一月十六日より二月末日まで、府下一斉に昭和四十七年度総合ねずみ駆除運動を展開。市町村では、期間中ねずみ一匹に、ねずみ抽せん券一枚と引換え、三月二十九日桜橋サンケイホー

ルで開催の、第九回大阪府環境衛生大会の席上、第二十回ねずみとりコンクールが行なわれます。

なお、ねずみ券抽せんの結果一等から五等まで、次のとおり賞金ならびに賞品が用意されています。

賞金

一等・一万円 一本
二等・五千元 二本
三等・一千元 十本

四等・五百円

二十本

五等賞品

(百五十円相当額)

当額)

一〇〇本

